

推薦調書（実装部門）

表彰区分	町・村	推薦都道府県	愛媛県
地方公共団体名	愛南町		
取組名称	コロナ禍でも持続可能、ぎょしょく教育活動のDX		
連携自治体、企業、団体等	愛南町ぎょしょく普及推進協議会(愛媛大学、愛南漁業協同組合、久良漁業協同組合)、愛媛 CATV		
デジタルを活用した取組の概要 (デジタルを活用した取組の全体概要と解決する個別課題の具体的内容)	(種類)	①	(左記が①の場合の分野) 農林水産業・教育
	【デジタルを活用した取組の全体概要】 - 愛南町が愛南町ぎょしょく普及推進協議会と連携して、愛南町内外の小中学校の児童生徒に対して、動画やアプリケーション、インターネット中継等を活用したぎょしょく教育普及活動を実施する取組 【実施に至る経緯・動機】 - 平成 17 年に愛媛大学の若林良和教授が提唱したぎょしょく教育を、漁協、漁業者及び教育行政機関で組織する愛南町ぎょしょく普及推進協議会を設立し、産官学が連携を強化して、継続して実施しています。ぎょしょく教育は、7つのぎょしょく(魚に触れる魚触、魚の生態や栄養を学ぶ魚色、獲る漁業を学ぶ魚職、育てる漁業を学ぶ魚殖、伝統的な魚文化を学ぶ魚飾、魚を取り巻く環境を学ぶ魚植、魚の味を知る魚食)により小中学校等の授業や行事で、産地と消費地の相互交流を図ってきましたが、令和 2 年度から新型コロナに対応した DX の実施にも取り組んでいます。 【解決する課題の具体的内容】 - 新型コロナウイルス感染症対策により学校での調理実習の実施が困難状況になり、また行動制限による人流の抑制により町外でのぎょしょく教育活動も困難な状況になりました。 - 町外でのぎょしょく教育活動には、人員や時間、地理的な要件により限定的な普及活動しかできない状況でした。		
デジタルを活用した取組による成果(成果がわかるデータ・数値)	【取組のアウトプット】 令和 3 年度 「ぎょしょく教育」普及事業、町内 36 回、町外 8 回、参加人数延べ 918 人。 - 公開動画 27 本 - 公開アプリケーション 8 本 - 公開料理レシピ 23 種類 - 愛南町役場ホームページ水産課関連公開ページ数 22 ページ - SNS (Facebook) 投稿数 211 件 (令和 3 年 5 月～) - SNS (Twitter) 投稿数 158 件 (令和 3 年 8 月～) 【取組のアウトカム】 令和 3 年度 - 動画視聴数 38,129 件 (令和 2 年度 30,691 件) - アプリケーションダウンロード数 約 1,000 件 ※学校等のネットワークは、セキュリティ強化されているためダウンロード数が計測できません。 - 料理レシピサイト視聴数 71,826 件 (令和 2 年度 98,852 件) - 愛南町役場ホームページ水産課関連ページアクセス数 38,806 件 - SNS (Facebook) 視聴数 79,456 件 - SNS (Twitter) 視聴数 39,904 件		

本取組の特徴的な点やデジタルの活用において工夫した点	・ 愛南町内外で実施しているぎょしょく教育の出前授業では、GIGA スクール構想により学校に一人一台導入された情報端末を使ったアプリケーションや動画、インターネット中継を積極的に活用しています。 ・ 水産王国愛媛県は養殖真鯛の生産が日本一であり、愛南町でも真鯛やブリ等の養殖業が盛んで、学校と養殖現場を地元ケーブルテレビにも協力していただきインターネットで中継して、現場で働く方からの生の声を聞くことができる出前授業等を実施しています。 ・ 魚が豊富で取扱いが多い町内鮮魚店の方などの協力により魚をおろす効率的な工程と地域独自の漁師が行う工程を実演していただき動画を撮影して、その動画の画像を使って魚を3枚におろす疑似体験ができるアプリケーションを制作しました。 ・ 魚を3枚におろす疑似体験ができるアプリケーションは、出前授業で子どもがひとりで何回でも指一本で疑似体験を行うことができるため食品ロスなく技術の習得ができ、さらに「本物の鯛をおろしてみたい」という興味を引き出して、魚を調理することへの意欲を引き出すことができています。 ・ 環境に配慮した持続可能な漁業を推進するために、海洋プラスチックや海底に放置されている漁具の回収を疑似体験できるアプリケーションやユニッコリー（藻場の減少要因の一つであるガンガゼウニに特産品のブロッコリーを出荷規格にする際にでる端材を餌として与えて育てたウニ）の畜養を疑似体験できるアプリケーションも制作して、地域の課題解決や魅力向上に努めています。 ・ 既に地域にある資源をデジタル化することは、市場規模が小さく大手企業の参入は見込めないため、アプリケーションや一部の動画は、関係者が制作しています。このような取組により、必要最小限の経費によりデジタル化を行っていますので、国の補助金には依存していません。また、地域資源の活用は、地域への関心、愛着、誇り、つながり、参画の意識を育てることにつながっています。 ・ アプリケーションや動画は、インターネットが整備された環境であれば利用可能であるため、人員や時間、地理的な要件により出前授業の実施が困難であった地域でもぎょしょく教育を享受いただけるようになりました。 ・ アプリケーションや動画は、インターネットに公開しているため家庭でいつでも利用できます。特にアプリケーションは、ゲーム性があるため家族や友人知人と時間等を競って一緒に楽しむ時間を共有することもできます。 ・ 児童や生徒以外の方にも、SNS等を使った多様性に対応した情報発信を積極的に行い、アプリケーションや動画、料理レシピサイト、ホームページ等から愛南町の水産業に興味を持っていただき、オンラインショップで水産物を購入していただき、また、実際に愛南町へ行ってみたいという機運を醸成しています。アプリケーションの配布では、日本以外の韓国、台湾からのアクセスが多く、フランスやブラジル等の国からもアクセスがあります。
今後の展望	令和3年度に愛媛大学の学生に制作していただいたぎょしょく対戦カードゲームとかるたは、デジタル化もしていただいていますので、愛南町役場ホームページから利用できるようにし、今後のぎょしょく教育で活用していく予定です。 現在既に取り組んでいる魚の外観を3Dモデリングすることで、普段は見ることもない魚の動作等を分かりやすく伝えることに加えて、さらに内臓や骨格まで3Dモデリングすることで内部構造までデジタル化して伝える予定です。

「ぎょしょく教育」概要図



「ぎょしょく」と言えば、「魚食」が想起され、魚食普及を意味します。*

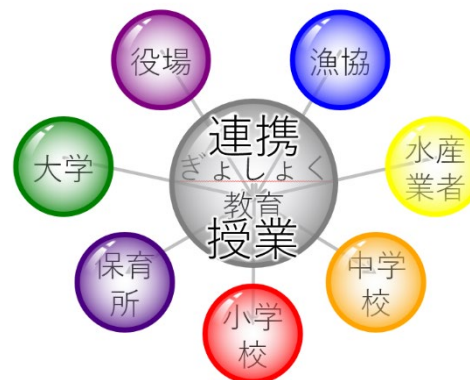
あえて、ひらがなで、「ぎょしょく」と書き表すのは非常に重大な意味があります。*

魚の生産から消費、さらに生活文化までを含む幅広い内容を含めるために、ひらがなの「ぎょしょく」なのです。*

「ぎょしょく教育」には、7つの「ぎょしょく」の概念が込められています。*

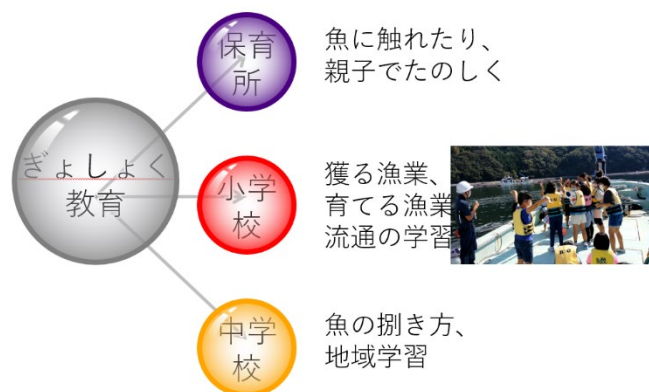
それは、「魚触」→「魚色」→「魚職」→「魚殖」→「魚飾」→「魚植」という一連の学習プロセスを経て、「魚食」へ到達できるように配慮したものが「ぎょしょく教育」です。*

3 ギョショクは、だれがだれに？



ぎょしょく教育は、水産業者と愛南漁業協同組合、久良漁業協同組合、愛媛大学、愛南町役場が連携して、愛南町内外の保育所、小中学校で実施しています。

4 ギョショク授業の内容？



ぎょしょく教育は、年齢により子どもの成長に合わせた内容で実施しています。

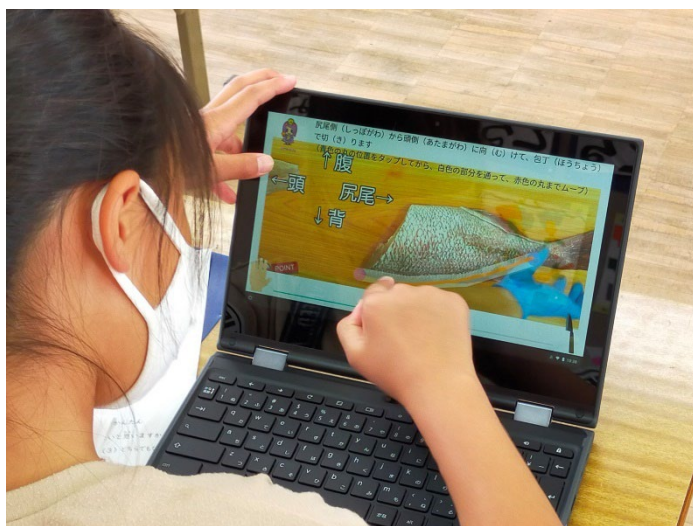
ぎょしょく教育出前授業の様子



アプリケーション（真鯛の3枚おろしに挑戦＋真鯛図鑑）を使った出前授業
操作方法を説明している写真

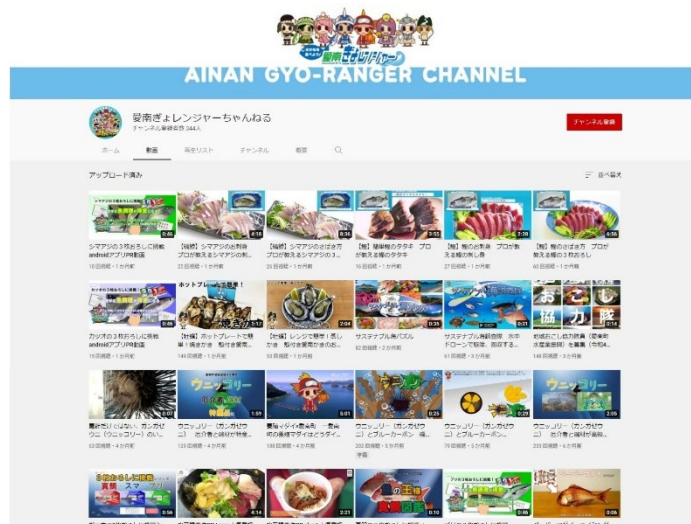


1人1台の情報端末で真鯛養殖場と学校をインターネットで中継した出前授業
現場で働く方への質問をしている写真



アプリケーション（真鯛の3枚おろしに挑戦＋真鯛図鑑）を使った出前授業
児童が画面上を指でなぞって3枚おろしを疑似体験している写真

情報発信



アプリケーション配布サイト
8本のアプリケーションがダウンロード可能
<https://play.google.com/store/apps/dev?id=7973048681996485123>

動画視聴サイト
73本の動画視聴可能
<https://www.youtube.com/channel/UCQjIAWS-5K1f4CbXr4JE77g>



料理レシピサイト
66種類のレシピを閲覧可能
<https://cookpad.com/kitchen/39837944>